

# 雅風会たより

## 第11号



因達羅大将 (川村雅則作)

### 目次

- ◆ はじめに
- ◆ 第61回仏教美術展報告
- ◆ 郷里鹿児島での佛像彫刻展の開催について
- ◆ あ・ら・か・る・と

2025年1月10日 編集・発行 宗教芸術院「雅風会」  
東京都品川区大崎 3-3-10

URL: <http://www1.cts.ne.jp/~h-1butsu/>

## ◆ はじめに

「雅風会たより」第11号発行の運びとなり、皆様のご厚情の賜物と心から御礼申し上げます。

おかげさまで雅風会は7年目を迎え、昨年は荒川区と横浜市に仏像彫刻教室を開講しました。仏像彫刻を楽しむ仲間が増えていくのは大変嬉しく、毎回「準備もまた楽し」であり、「教えることは教わること」を実感しています。

教室では多くの方が、彫っている時間は「無心」になっているとおっしゃいます。そしてこの無心になれる時間を慈しんでおられるように感じます。朋琳先生は、「一心不乱に小刀を使い自らの手で木屑を取り去ってみ佛を迎えようとしている生徒さんの姿」に写真家の駒澤晃氏を重ねられ、「カメラという小刀で佛の姿を彫刻されているように思える」と言っておられます。（写真集『一佛一会』より） 仏像彫刻の「無心」はいろいろな営みの中にも通じるものなのかもしれません。

一体の仏像を彫り上げてゆく時間を大切にしたいと思っております。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。 （岩場記）

## ◆ 第61回仏教美術展報告



第61回仏教美術展が昨秋の11月15日から17日まで開催されました。

開催日前日の14日、搬入時刻になるとあちらこちらで「お久しぶり〜！」の声が聞こえてきます。

今年の当会からの出品は9名でした。いつものように、作品の配置図を確認し、展示台の上がいい感じに向きを整えて作者の札を貼ります。搬入日に写真撮影ができるのは楽しみの一つで、食欲に撮って回りました。

会場設営後は恒例の懇親会。二胡の演奏を聴きながらの楽しいひと時です。何気ない会話の中にも大佛師松久宗琳仏所の歴史と伝統が感じられ、貴重な時間になりました。



15日からの3日間、様々な仏様が一堂に会したフロアの雰囲気は、ここでしか味わえない

独特なものがあります。言葉で表すのは難しいですが、それぞれの仏様に彫られた方の思いや時間が詰まっていて、それが会場全体に広がっています。見事なノミ技に感服したり研鑽を重ねた作品から学んだりする一方、教本の作品からも彫られた方の手で異なる仏様が生まれていることに感銘を受けたり、身にしみて思うことは多々あります。

最終日の11月17日は、故川村雅則先生の7回目のご命日でした。会場で先輩方と思い出話で故人を偲び、手を合わせました。

次回第62回仏教美術展も皆様とお会いできますように。 合掌

（岩場記）



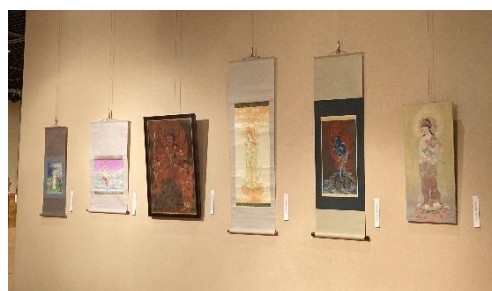
◆ 郷里鹿児島での仏像彫刻展の開催について (義村 幸)

昨年 10 月に傘寿を迎え、仏像彫刻の展示会「義村幸 鹿児島一門展」を鹿児島市で同郷の金竹さんら 3 名の協力を得て開催しました。仰々しい名称に感じるかもしれませんが、30 数年前に川村雅則先生のご自宅で開催されていた所沢教室に通い始めた頃、先生が三越新宿店のギャラリーで「川村雅則一門展」と銘打ち、三輪さん、阿部さん、佐藤さんらと共に展示即売会を開催されました。当時の作品群に圧倒され、その素晴らしさに感銘を受け、いつの日か自分もその末席に加わりたいとの思いが強く、このような名称にしました。場所は、西郷隆盛公が西南の役に敗れ、自刃した城山の麓に位置する島津藩の本城（鶴丸城）跡に建てられた鹿児島歴史・美術センター黎明館です。大手門の石垣には、西南の役の銃弾の跡が生々しく残る歴史ある場所で、本格的な美術館としても知られています。天井が高く広々とした空間で、照明設備等も完備されていますが、展示台が軽いスチール製ではなく、重たい木製のみしかなく、倉庫から運び出して並べる作業が大変であることは事前の打ち合わせで分かっていたので、昔の空手道仲間 7~8 名に手伝ってもらいました。ただ、昔の猛者も後期高齢者で、老骨にムチ打ち頑張ってくれました。



出品者は全員鹿児島県出身で、仏像彫刻教室を 4 ヶ所主宰する金竹幸生さんと永石育親さんです。永石さんは無類の山好きで遭難死亡した友の慰霊に仏像彫刻を始めた空手道部の後輩、それと若松祐弥さんです。彼は世界チャンピオンクラスの格闘家で、トレーニングの合間に私の自宅に来て、1 年かけ宮本武蔵の心境になり不動明王立像を彫り上げたそうです。バンコクでの試合を控え、トレーニングの追い込みのために本人は会場には来られませんが、作品のみ展示されました。来場者の中には若松選手のファンもおり、次の日には友人達を連れてくるほど感激して

ました。展示作品としては、私は習作の仏頭（地藏、釈迦、観音）、仏像彫刻のすずめを教本にして作成した観音菩薩立像など初期の作品から、京都展に出品するために 1 年 1 作を目標に 30 数年かけて彫り上げた 30 点及び小作品を展示しました。金竹さんは 15 点、永石さんは 13 点、若松さんは不動明王立像、そして私の娘で日本画家の青山京古による仏画 7 点も展示しました。



展示した作品には、それぞれ思い出があり、資料集めから材料の購入、川村先生の指摘など、走馬灯のように当時のことが蘇ってきました。川村先生から褒められることは少なく、「慢心ですな」とか「安い材料を買ってきたな」など厳しい指摘を受けましたが、関東支部展を新宿で開催したとき、「よくここまで彫れたな」と珍しく褒められ感激したことを思い出しました。



当初、来場者が少ないのではと心配されましたが、地元紙やテレビ、ラジオが報道してくれ、多くの方々に来場していただき、改めてマスコミの活用の重要性を再認識しました。市内の仏像彫刻教室に通う方々が見学に来て意見交換するなど、貴重な経験をしました。最終日には1年半ぶりの桜島噴火（祝砲）と降灰の洗礼を受けましたが、15時の閉館を過ぎても降灰が収まるのを待って来場する方々が多く、作品の撤収・梱包をしながら作品を見ていただくという嬉しい悲鳴もありました。



会場の選定、案内状、来場者に配布するカレンダーや写真集、看板の作成、作品の梱包発送など、1年がかりの作業で疲れましたが、多くの友人や親戚と交流することができ、疲れも吹き飛びました。仏像彫刻を導いてくださった川村雅則先生を始め、開催に協力・支援してくださった方々に心から感謝すると共に、健康管理に努め、これからも一人一仏運動の楽しさを広めてまいりますので、よろしくお願い致します。

\*\*\* あ・ら・か・る・と \*\*\*

#### ◆ 第62回仏教美術展のお知らせ

日時：2025年11月7日（金）～11月9日（日） ※前日の6日（木）は、作品搬入および会場設営日。

出品・参加お申し込みの詳細は、7月発行予定の第12号でお知らせします。

研鑽会、教室、賛助会の皆様、個人でのご出品を希望されている方、ご参加をお待ちしています。毎年のことながら、作品のご準備をよろしくお願いいたします。

#### ◆ 研鑽会会費納入のお願い

- ・研鑽会会員の皆様は、4月になりましたら2025年度年会費のお振込みをお願いいたします。
- ・賛助会の年度は「7月～翌年6月」です。会費のお振り込みについては次号でお知らせしますので、引き続きご継続いただけますよう、よろしくお願いいたします。

#### ◆ 新規会員大歓迎！

入会ご希望の方は、岩場（090-2486-0298）までお気軽にご連絡ください。お待ちしております。研鑽会、仏像彫刻教室、賛助会の詳細は、当会ホームページをご覧ください。